慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	法学研究第五十五巻(昭和五十七年自一号至十二号)総目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	1982
Jtitle	法學研究 : 法律・ 政治・ 社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.55, No.12 (1982. 12)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19821228-0137

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

法学研究　第五十五巻（昭和五十七年自一号至十二号）総目次

論説

	号	頁	通頁	執筆者
市場機構による最小国家生成について	一	一	一	田中　宏
国税不服審判所の通達拘束と裁決権（三・完）——その制定過程と現状——	一	二二	二二	木村弘之亮
社会主義発展のジレンマ——中国の戦略路線の分析・一九三九—一九八〇——	一	四三	四三	ピーター・ヴァン・ネス／サティシュ・ライチャー／国分良成訳
選挙予測に関する計量分析——参議院選挙の予測方法と成果——	一	七三	七三	小林良彰
日本における議事決定並びに選出方式について——上代より平安期に到る——	二	一	一二七	利光三津夫
「革命的ロマン主義」としての「保守革命」論	二	四〇	一六六	蔭山　宏
バルトルス・デ・サッソフェラート「条例衝突理論」概観——《中世イタリア法学 Mos Italicus》研究序説——	三	一	二六九	森　征一
中国幣制改革をめぐる英米提携	三	四四	三一二	赤木完爾
多元主義と《南北》体制	三	六九	三三七	ヤニス・キナス／内山秀夫訳
日本における議事決定並びに選出方式について——鎌倉期より戦国期に到る——	四	一	四〇五	利光三津夫
基本権の多次元的機能（一）	四	二三	四二七	青柳幸一
満州国の農村金融政策と中国農民の対応——合作社・信用事業を中心として——	四	四七	四五一	片桐裕子

中国大躍進運動の形成過程……五　一　五三九　国分良成
基本権の多次元的機能（二）……五　二七　五六五　青柳幸一
「一九八〇年五月三〇日の妥協」……六　一　六八五　田中俊郎
——ECのパッケージ・ディールの一事例——
ドイツ民事訴訟における外国法の適用をめぐる訴訟上の諸問題……六　三三　七一七　ペーター・アレンス　石川明訳
基本権の多次元的機能（三・完）……六　四九　七三三　青柳幸一
西ドイツ民訴法における一当事者による訴訟終了宣言について……七　一　八〇七　坂原正夫
相互保有規制の基本的立場と問題点……七　三八　八四四　宮島司
日本のミクロネシア占領と「南進」（一）……七　七〇　八七六　我部政明
——軍政期（一九一四年から一九二二年）を中心として——
ボアソナード「自然法講義（性法講義）」の再検討……八　一　九五三　池田真朗
一九三八年一二月六日仏独声明……八　三三　九八五　渡邊啓貴
——「四国協調」にみるフランスの宥和政策——
日本のミクロネシア占領と「南進」（二・完）……八　六九　一〇一九　我部政明
——軍政期（一九一四年から一九二二年）を中心として——
日本における議事決定並びに選出方式について……九　一　一〇七七　利光三津夫
——江戸期——
テレビのニュース報道に関する内容分析……九　二三　一〇九九　小林良彰
非自国中心主義の発展理論を求めて……九　四四　一一二三　H・J・ウィーアルダ　内山秀夫訳
——第三世界からのもう一つの構想——
維新外交の発進……十　一　一一八七　内山正熊
——明治元年の神戸事件をめぐって——
アノミー・権威主義と政党支持……十　四三　一二二九　小林良彰
——同時選挙における無党派層に関する計量分析——

量刑事情の範囲とその帰責原理に関する基礎的考察（一）……十　六七　一二五三　井田　良
——西ドイツにおける諸学説の批判的検討を中心として——
オーストラリアの歴史的発展と現代の諸問題（一）……十一　一　一三〇五　関根　政美
量刑事情の範囲とその帰責原理に関する基礎的考察（二）……十一　三四　一三三八　井田　良
——西ドイツにおける諸学説の批判的検討を中心として——
アメリカにおけるいわゆる『政治問題の法理』の正当性の検討……十二　一　一四四九　小林　節
オーストラリアの歴史的発展と現代の諸問題（二）……十二　三六　一四八四　関根　政美
量刑事情の範囲とその帰責原理に関する基礎的考察（三）……十二　八一　一五二九　井田　良
——西ドイツにおける諸学説の批判的検討を中心として——

研究ノート

律令注釈書逸条二題……三　九二　三六〇　利光　三津夫
医師の義務としての説明の範囲……五　五二　五九〇　河原　格
——西ドイツの裁判例を中心に——

資料

民事訴訟上の証拠法の発展傾向と医師の責任訴訟……一　八八　八八　ロルフ・シュテュルナー　石渡哲訳
自由党静岡事件に関する新資料……二　七二　一九八　手塚　豊
——鈴木音高外八名国事ニ関スル供述書——
被害者学　ビブリオグラフィー……三　九六　三六四　宮澤　浩　諸道　一　安部　英　哲夫
——ドイツ語文献——
税法における用益権……四　七五　四七九　H・シュナイダー　三上威彦訳
結果的加重犯の共犯についての解釈論的考察……四　八七　四九一　K・H・ゲッセル　井田良訳

スウェーデン犯罪防止委員会の報告書概観（一九八一年）……五　八〇　六一八　坂田　仁
被害者学　ビブリオグラフィー――英語文献（一）――……五　八七　六二五　宮澤浩一・安部哲夫・諸澤英道
被害者学　ビブリオグラフィー――英語文献（二）――……六　六九　七五三　宮澤浩一・安部哲夫・諸澤英道
被害者学　ビブリオグラフィー――英語文献（三・完）――……七　九〇　八九六　宮澤浩・安部哲夫・諸澤英道
阿波自助社「通諭書」事件裁判関係史料……八　八八　一〇四〇　手塚豊
自由党静岡事件の新資料二篇……九　八一　一一五七　手塚豊・寺崎修
西ドイツ刑法学の現状（追録Ⅵ）……十一　一四二　一四四八　宮澤浩
和議債務者の免責と保証人の責任範囲……十二　一〇九　一五五七　陳榮宗・呉松枝訳著

判例研究

〔商法〕……商法研究会
二一六　交換手形の受取人の依頼により、裏書人の信用を利用させるためになされた裏書……一　一〇九　一〇九　近藤龍司
二一七　表見代表取締役が名義使用を許諾した場合と会社の名板貸による責任……二　一二四　二五〇　高鳥正夫
二一八　平取締役に要求される監視義務の範囲とその履行の程度……三　一一九　三八七　並木和夫
二一九　保証の趣旨の裏書と手形債務の民事保証の成否……四　一〇九　五一三　黄清溪
二二〇　営業譲渡に際しての債務引受広告……五　一三〇　六六八　加藤修
二二一　名義書換の失念と新株引受権の帰属……六　一〇四　七八八　高鳥正夫

二二二　実在しない会社が介在している場合の裏書の連続性と融通手形に関する悪意の抗弁の成否……七　一二五　九三一　久留島　隆
二二三　約束手形の振出人の特定と振出日の関係……八　一一一　一〇六三　小宮山宏之
二二四　企業提携のため第三者に割当てられた非上場株式の新株の発行価額が「特ニ有利ナル発行価額」にあたらないとされた事例……九　九二　一一六八　阪埜光男
二二五　無効の選任決議にもとづく協同組合代表理事の権限濫用行為……十　九九　一八二五　倉沢康一郎
二二六　いわゆる名目的代表取締役の第三者に対する責任……十一　六六　一三七〇　米津昭子
二二七　害意ある約束手形所持人に対する割引金不交付の抗弁……十二　一一九　一五六七　近藤龍司

〔最高裁民訴事例研究〕……民事訴訟法研究会
一九三……一　一一三　一一三　斎藤和夫
一九四……二　一二八　二五四　石渡哲
一九五……三　一二四　三九七　山田恒久
一九六……四　一一四　五一八　石川内藤理明
一九七……五　一三五　六七三　石川石鍋毅明
一九八……六　一一〇　七九四　呉松枝
一九九……七　一三一　九三七　伊東小川健乾
二〇〇……八　一一五　一〇六七　永井博史
二〇一……九　九八　一一七四　山田恒久
二〇二……十　一〇四　一二九〇　伊東小川健乾
二〇三……十一　七一　一三七五　坂原正夫

二〇四……十二　一二二　一五七〇　呉　松枝

紹介と批評

P・K・ファイヤアーベント著　村上陽一郎・渡辺博共訳
『方法への挑戦――科学的創造と知のアナーキズム――』……一　一二〇　一二〇　小野修三
石田雄著　『「周辺からの思考」』……二　一三五　二六一　内山秀夫
パトリック・バックランド著　『北アイルランド史』……三　一二九　三九七　宮沢健
倉沢康一郎著　『手形法の判例と論理』……四　一二〇　五二四　木内宜彦
井出孫六・我部政男・比屋根照夫・安在邦夫編　『自由民権機密探偵史料集』……四　一二七　五三一　寺崎修
加藤久雄著　『治療・改善処分の研究――社会治療処分を中心として』……五　一四〇　六七八　仲宗根玄吉
手塚豊著　『近代日本史の新研究　I』……六　一一四　七九八　石井良助
ヘルマン・ヘラー著　安世舟訳　『ドイツ現代政治思想史』……七　一三九　九四五　中道寿一
手塚豊著作集第一巻・第二巻　『自由民権裁判の研究』（上）（中）……八　一二〇　一〇七二　家永三郎
ジャン・ルイ・スラン編　『多元主義的民主主義』……九　一〇二　一一七八　平林正司
城戸正彦著　『空域主権の研究』……十　一一二　一二九八　長田祐卓
石川忠雄教授還暦記念論文集　『現代中国と世界――その政治的展開』……十一　七七　一三八一　宇佐美滋
高鳥正夫編著　『改正会社法の基本問題』……十二　一二七　一五七五　服部榮三